

## 基準1 理念・目的

関連委員会	副学長、学部長、大学事務局長
関連部署 (事務部門)	修学支援室、大学運営室
関連データ(規程)	建学の精神、敬愛大学教育憲章、敬愛大学学則

### 令和4年度 【次年度に向けた課題】

- (1) 国際学部の24カリキュラム作成、教育学部の25年度からの申請に向けて対応する。学部DP、CPも含め検討、作成を進める。
- (2) 自校教育「敬天愛人講座」の後期全15回オンデマンドを履修する学生の出席率、単位取得率の向上を目指す。

### 1 令和5年度 活動方針・目標(ACTION PLAN)

- (1) 大学の理念・目的(建学の精神、敬愛大学教育憲章)の下に教育課程(カリキュラム)が編成されているかを検討する。
- (2) 自校教育「敬天愛人講座」について見直しを図る。

### 2 具体的計画(PLAN)

- (1) 国際学部がカリキュラム変更を検討しており、DPやCP、副専攻などについても見直しと修正を行う。
- (2) 「敬天愛人講座」の内容、開講方法等について検討する。

### 3 取組状況(DO)

- (1) 国際学部の2024年度カリキュラム変更について、主な変更案は①「4つの専攻」を「4つのコース」とする、②4つのコースを「英語コミュニケーションコース」「国際ビジネスコース」「観光マネジメントコース」「情報・データサイエンスコース」として検討を続けている。
- (2) 「敬天愛人講座」の内容、開催方法について検討を行っている。現在の決定事項は、学園長、客員教授について講義を収録してオンデマンド教材を作成することである。

### 4 点検・評価(CHECK)

- (1) 国際学部の2024年度カリキュラムは、取組状況(Do)の通り4つコース体制として変更をした。併せて、DPの見直しも行った。
- (2) 「敬天愛人講座」の今年度の履修者数は、前期は主に経済学部1年で219名、後期は主に国際学部1年と教育学部2年で141名となった。次年度の内容、開催方法について検討をした結果、2024年度も例年通りの内容、1年生(教育学部は2年)を履修登録させることとなった。オンデマンド教材の作成については、学園長、客員教授の収録、編集を終えた。

### 5 次年度に向けた課題(ACTION)

- (1) 2025年度からの新学部設置申請に伴い、新学部と他学部とのカリキュラム、科目のすり合わせ、見直しを行っている。
- (2) 「敬天愛人講座」の単位修得率向上を目指す。

以上

## 基準2 内部質保証

関連委員会	副学長、学部長、大学事務局長
関連部署 (事務部門)	修学支援室、大学運営室、IR・広報室
関連データ(規程)	建学の精神、敬愛大学教育憲章、敬愛大学学則

### 令和4年度 【次年度に向けた課題】

- (1)2025年7月の大学基準協会への改善報告書の提出に向けて、大学運営会議・大学執行会議等の組織機能を強化し、内部質保証推進体制の実質化が図られていることを検証し、再課題が発生した場合には改善策を立案する。
- (2)引き続き大学評価の際に指摘を受けた総評・概評の事項について対応を行う。

### 1 令和5年度 活動方針・目標(ACTION PLAN)

- (1) 大学運営会議と大学執行部会議を中心とする内部質保証体制の実質化を図る。
- (2) 大学評価の指摘事項に対する対応状況を確認する。

### 2 具体的計画(PLAN)

- (1) 大学運営会議を大学の最高決議機関として教育研究・大学運営に関わる全学的な事項を審議する組織とする。大学執行部会議を重要事項の執行方法等を調整する組織とする。自己点検・評価委員会や各学部・委員会等と連携し、PDCA サイクルを推進する。
- (2) 『第3期大学評価結果』に基づき、学部や委員会等における取り組み状況を確認する。取り組み中または予定のものについては、2023年度の計画を確認する。

### 3 取組状況(DO)

- (1) 大学運営会議と大学執行部会議の目的と構成員がほぼ同一であり、役割・機能が重複していることから、大学執行部会議を廃止し、計画を大学運営会議、実行を学部学科・委員会・センター等、評価を自己点検評価委員会・大学認証評価・内部質保証外部評価会議・学生モニター会議、改善を大学運営会議で行うことを検討している。
- (2) 『第3期大学評価結果』により、年報とともに学部や委員会等における取り組みを推進、確認している。

### 4 点検・評価(CHECK)

- (1) 大学運営会議と大学執行部会議を統合し、機能の一元化を図ることとした。大学執行部会議を廃止し、大学運営会議が内部質保証を担う。
- (2) 『第3期大学評価結果』の指摘に対して、内部質保証の実質化は十分と言えない。方針や計画の策定、実行と証跡の収集、点検・評価と改善の検討を1年間を通して具体的にを行う必要がある。
- (3) 内部質保証の実質化のため新たに内部質保証システム体系を作成した。これにより、推進、実行、点検・評価の各組織の連携が促進されることが期待される。

### 5 次年度に向けた課題(ACTION)

- (1) 内部質保証の推進、実行、点検・評価の各組織の連携の強化。
- (2) 内部質保証に関する大学運営会議の開催(計画:4月、12月、改善:5月、1月)。
- (3) 内部質保証システム体系図に基づく1年間の運用実績の構築。

以上

## 基準3 教育研究組織

関連委員会	副学長、学部長、学科長、大学事務局長
関連部署 (事務部門)	修学支援室、大学運営室
関連データ(規程)	建学の精神、敬愛大学教育憲章、敬愛大学学則

### 令和4年度 【次年度に向けた課題】

- (1) 各センターについて、より一層の大学の理念・目的を踏まえた教育組織を目指す。
- (2) FD・SDを実施して、教員としての資質・能力の向上を図る。

### 1 令和5年度 活動方針・目標(ACTION PLAN)

- (1) 各センターにおいて目的を再確認し、行事や講座のあり方を再検討する。
- (2) FD・SD研修を実施して、教職員としての資質・能力の向上を図る。

### 2 具体的計画(PLAN)

- (1) 各センターで開催している行事、講座について見直しを行う。
- (2) FD・SD委員会で、研修内容を検討して実施する。

### 3 取組状況(DO)

- (1) 教職センターの主な検討事項は次年度から教員採用試験の方法が変更となるため、今から対策講座の時期や内容について検討を進めている。英語教育開発センターが主催する、高校生を対象とした英語スピーチコンテスト(KEIAI CUP)について、コロナ禍からオンライン(動画、音声)で開催、評価をしていたが、昨年度からはリアルタイムでZoom開催とした。オンライン開催することにより遠方からの参加者も増加した。今年度も引き続きリアルタイムのZoom開催となった。
- (2) 8月のFD研修会には47名が出席した。内容は「大学・学園のSDGsの取り組み紹介」「KCNを利用した教育実践例」のテーマで実施した。2月のFD研修会の内容を今後委員会で協議し決定する。

### 4 点検・評価(CHECK)

- (1) 教職センターが主催する教員採用対策講座について、時期や内容の見直しを行い、この春季から実施している。英語教育開発センターが主催した、英語スピーチコンテスト(KEIAI CUP)は取組状況(DO)の通り、Zoom開催として盛況であった。
- (2) 8月は取組状況(DO)の通り。2月は「生成AIを活用した授業・研究及び学生対応について」をテーマとして実施をし、51名の参加となった。

### 5 次年度に向けた課題(ACTION)

- (1) 各センターとして、2025年度からの新学部設置にどのように対応していくのかを検討する。
- (2) FD・SD研修会を実施して、教員としての資質・能力の向上を図る。

以上

## 基準4 教育課程・学習成果

関連委員会	副学長、学部長、学科長、教務部、教務委員会
関連部署 (事務部門)	修学支援室、IR・広報室
関連データ(規程)	建学の精神、敬愛大学教育憲章、敬愛大学学則

### 令和4年度 【次年度に向けた課題】

- (1) アセスメントテストの受験率向上とアセスメントテストの見直し
  - (2) 評価基準(授業間の評価格差)の再検討
  - (3) 「敬愛プログラム」(SDGsに関連する取組み)の活性化
  - (4) オンデマンド型授業の効果について検証(教育検証会議より)
  - (5) AI・データサイエンス教育の充実
- ① 実践型AI・データサイエンス教育の充実(実データや実課題、企業との連携、インターンシップ)
  - ② 高大連携の強化(敬愛学園高校、県内の公立高校)
  - ③ 学修支援、就職支援などの各種サポートの強化

### 1 令和5年度 活動方針・目標(ACTION PLAN)

- (1) アセスメントテストの受験率向上とアセスメントテストの見直し
  - (2) 評価基準(授業間の評価格差)の再検討
  - (3) 「敬愛プログラム」(SDGsに関連する取組み)の活性化
  - (4) オンデマンド型授業の効果について検証(教育検証会議より)
  - (5) AI・データサイエンス教育の充実
- ① 実践型AI・データサイエンス教育の充実(a.実データや実課題、b.企業との連携、c.インターンシップ)
  - ② 高大連携の強化(a.敬愛学園高校、b.県内の公立高校)
  - ③ 学修支援、就職支援などの各種サポートの強化

### 2 具体的計画(PLAN)

- (1) アセスメントテストの受験率を上げるために、実施時期と期間に気を配る。また、期間中に未受験者に対してリマインドを行い受験を促す。今年度から教育学部がアセスメントテストではなく履修カルテでアセスメントを測ることになった。状況を確認しながら経済学部、国際学部の見直しを検討する。
  - (2) 評価基準(授業間の評価格差)について継続して検討していく。
  - (3) 「敬愛プログラム」の活性化に向けて検討していく。
  - (4) オンデマンド型授業の効果について、これまでのオンデマンド授業のデータを用いて検証する。
  - (5) AI・データサイエンス教育の充実
- ① a. 「AI・データサイエンス実践」の外部講師招聘(2024年度開講)、b. ちばぎん総研の特別講義開講、c. インターンシップ先の開拓
  - ② a. 敬愛学園高校1年生対象の出前授業開講と2年生生理系クラス対象の出前授業開講、b. 県内の公立高校への出前授業開講
  - ③ 学修相談会の開催、学修の振り返り(就職相談)の個別学生への対応

### 3 取組状況(DO)

- (1) アセスメントテストの、実施時期を1年生は4月、3年生は7月を中心に実施したが受験率は例年通りとなり次年度以降の課題となる。教育学部も急遽、他学部と同様にアセスメントテストを実施することとなった。また、1年生は7月、3年生は9月ガイダンス時にテスト結果を用いてのGPS-Academic振り返りガイダンスを実施した。
  - (2) 評価基準(授業間の評価格差)について検討し昨年通りとすることとなった。併せて、授業評価アンケートと授業評価アンケートを受けての報告書について内容を検討し、報告書について一部追加した。
  - (3) 「敬愛プログラム」の活性化のため、学生、ゼミ担当教員への周知を徹底して行い、募集した結果3件の応募があり2件の採択となった(1件は辞退)。
  - (4) オンデマンド型授業の効果の検証はこれから実施する。
  - (5) AI・データサイエンス教育の充実
- ① a. 「AI・データサイエンス実践」の外部講師招聘(2024年度開講)は3回実施予定、b. ちばぎん総研の特別講義開講は2024年1月25日5限「観光マーケティング調査」にて特別講義実施予定、c. インターンシップ先の開拓はまだできていない。
  - ② a. 敬愛学園高校1年生対象の出前授業開講と2年生生理系クラス対象の出前授業開講を1年生7月13日11:20~12:30大塚先生により実施(高校体育館)。2年生には6月29日11:45~12:35田中先生により実施(大学から高校4教室をつなぎzoom)。b. 県内の公立高校への出前授業開講はまだできていない。
  - ③ 学習相談会は6月11日昼休みに実施、学修の振り返り(就職相談)の個別学生への対応は実施できていない。

#### 4 点検・評価(CHECK)

- (1) アセスメントテスト受験率は例年とほぼ変わらず76%であった。今年度は、GPS-Academic振り返りガイダンスを実施して、テストの意味、内容を学生へ周知することができた。
- (2) 評価基準(授業間の評価格差)について検討し昨年通り実施した。授業評価アンケートは、前期70%、後期54%と回答率が低かった。
- (3) 「敬愛プログラム」採択された2件について、中間報告、最終報告を実施して単位認定となった。
- (4) オンデマンド型授業の効果の検証については未実施となってしまった。
- (5) AI・データサイエンス教育の充実
  - ① a.業務提携完了 b.実施。受講生へのアンケート結果はすべて「期待通り」と「期待以上」と高評価。 c.未達成。
  - ② a.計画通り、1年生全員を対象とする「データサイエンスへのいざない」と2年生生理系4クラス対象のデータ分析実習を実施 b.未達成。
  - ③ 相談会を前期・後期1回ずつ開催。ITパスポート講座開講。学修の振り返り(就職相談)の個別学生への対応は実施できなかった

#### 5 次年度に向けた課題(ACTION)

- (1) アセスメントテストの課題は受験率の低さであるため、受験方法の工夫が必要である。また、教育学部は次年度からPROGを利用するため内容、状況を把握する。
- (2) 評価基準(授業間の評価格差)のさらなる検討と、授業評価アンケートの回答率上昇(特に後期)の策を検討する。
- (3) 「敬愛プログラム」の活性化を目指す。
- (4) オンデマンド型授業の効果について検証をする。
- (5) AI・データサイエンス教育の充実
  - ① 実践型AI・データサイエンス教育(a.「AI・データサイエンス実践」外部講師による実データを用いた実習 b.「観光マーケティング調査」外部講師による千葉県の実データを用いた分析紹介)
  - ② 高大連携の強化(a.敬愛学園高校 b.県内の公立高校)
  - ③ 学修支援(a.説明会・相談会の開催 b.ITパスポート対策講座開講)
  - ④ 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」再認定に向けた準備

以上

## 基準5 学生の受け入れ

関連委員会	アドミッションセンター会議、入試委員会
関連部署 (事務部門)	アドミッションセンター事務室、IR・広報室
関連データ(規程)	建学の精神、敬愛大学教育憲章、敬愛大学学則

### 令和4年度 【次年度に向けた課題】

#### (1)オープンキャンパス

コロナ禍の緩和により、今年度は1、2年生の参加者数が予想以上に多く、昨年度55名に対して193名と、約3.5倍の伸びとなった。この2年間は、3密回避のため「3年生限定」の回が多かったが、今年度は学年の制限を設けなかった。1、2年生の早期取り込みはできたものの「事前予約制」を継続したこと、使用会場の甘さも影響して、逆に予約枠が1、2年生で埋まり、3年生を多く取り込めない回があった。来年度は使用会場や動線を見直して、より多くの予約枠を確保できるよう改善する。また、より一層の少子化対策として、年末に1、2年生向けのオープンキャンパスの実施を計画する。

#### (2)入試

多様化する出願傾向に合わせるため、総合型選抜を「併願型」に戻したり、教育学部においても総合型「資格」を追加したりと、受験生にとって出願しやすい入試制度に改正する。また、AI・DSセンターより、新たな特待生入試制度の提案もあり、対応していく。さらに、新学習指導要領で学習してきた生徒に対応する「2025年度入試改革」への対応を、引き続き構築する。また、2024年度入試より、短大が「Web出願」を導入することが決定しており、大学との同時運用に向けて、準備を進めている。

(3)2021年度「大学認証評価の指摘事項」に基づき、学生の受け入れに関する「自己点検・評価」方法の充実化に、引き続き取り組む。

### 1 令和5年度 活動方針・目標(ACTION PLAN)

(1)経済学部298名・国際学部115名・教育学部82名、合計495名の確保。

(2)オープンキャンパス来場者目標を、3年生1,120名、全体1,500名とする。指定校推薦志願者のより一層の確保を目的とし、年内での定員充足を目指す。

(3)2024年度入試の見直しに基づいた入学者選抜の実施

(4)学生の受け入れに関する「自己点検・評価」の充実。2021年度「大学認証評価の指摘事項」に基づく。

### 2 具体的計画(PLAN)

(1)職員と入試顧問による高校訪問を、引き続き積極的に行う。訪問担当者に加え、必要に応じて教員も同行し、学部のPRを行う。その他、在学生の様子やトピックス等を伝え、高校側の要望を聞き取るなどしてコミュニケーションを深め、指定校をはじめ、本学志願者の確保に努める。

(2)「日本語学校向け大学説明会」を再開する。日本語学校も引き続き訪問し、より一層の留学生志願者の確保に努める。

(3)オープンキャンパスは「来場型のみ」に戻し、学食体験も再開する。コロナ前の実施体制に戻して、来場者の満足度向上と、その後の志願率向上を目指す。

#### (4)入試

①総合型選抜:5回の入試を全学部対象とし、年明けの2回(4期、5期)は「併願型」とする。「資格」型は、教育学部でも適用する。

②指定校推薦:人数枠の増加、新規学部の指定校追加等、高校からの依頼は積極的に受け入れ、速やかに対応する。

③一般選抜、共通テスト利用選抜:それぞれ単願の検定料で、併願、3併願を同額で受験可とする制度を継続する。

④「国際学部 情報・データサイエンスコース特待生」選抜を、新たに実施する。

(5)「入学者選抜の基本方針」で意図した入学者が選抜できているのかを、入試方式ごとに追跡調査を実施するなどして、定期的な自己点検・評価を行う。そのための基準、体制、方法、プロセス等は、アドミッションセンター規程に盛り込む。

### 3 取組状況(DO)

#### (1)オープンキャンパス

コロナの5類移行に伴い「完全対面形式」とし、入場者制限も解除して、より一層の来場者獲得を目指した。来場者目標1,500名(全学年)に対し1,305名と、目標達成には至らなかったが、昨年度来場者数の1,060名に対しては、23%の増加となった。

学年別では、3年生(受験生)が昨年度855名(オンライン参加含む)に対して6%減の803名となった一方、1、2年生は昨年度205名に対し502名と、約2.45倍の伸びとなった。3年生の減少は、今年度の3年生人口の減少(千葉県では約2,000名減といわれている)も、大きく影響したものと思われる。

また、1、2年生の増加理由は、「高校からの指導」「早めに進学先を決めるための大学探し」等による。

3年生来場者の減少による、年内入試の志願者への影響が想定される。今後のOCは、より満足度を向上させて、志願率の向上を図る必要がある。次年度以降は短大との同日開催となることから、プログラムの見直しや運用方法を改善する。

#### (2)入試状況

総合型選抜1期は59名で、昨年度93名に比べて約37%減となった。合格発表日は11月1日という文部科学省のルールに沿って、本学では試験日から合格発表までの期間を必要以上に伸ばさないよう、10/21と設定したが、淑徳大学や千葉経済大学は、9月上旬から下旬にかけて入試を実施し、「内定」「1次発表」などという名目で、11/1よりも前に合否を伝えているものと思われる。こうした手法により、早めに志願者を引き抜かれてしまった可能性がある。次年度入試は、こうしたことのないよう、入試日程を見直す。

## 4 点検・評価(CHECK)

### (1)オープンキャンパス

コロナの5類移行に伴い「完全対面形式」とし、入場者制限も解除して、より一層の来場者獲得を目指した。来場者目標1,500名(全学年)に対し1,305名と、目標達成には至らなかったが、昨年度来場者数の1,060名に対しては、23%の増加となった。学年別では、3年生(受験生)が昨年度855名(オンライン参加含む)に対して6%減の803名となった一方、1,2年生は昨年度205名に対し502名と、約2.45倍の伸びとなった。3年生の減少は、今年度の3年生人口の減少(千葉県では約2,000名減といわれている)も、大きく影響したものと思われる。また、1,2年生の増加理由は、「高校からの指導」「早めに進学先を決めるための大学探し」等による。

### (2)高校訪問

高校訪問担当が、日々担当校を訪問し、高校との良好な環境づくりに取り組んでいる。指定校推薦において、高校からの「指定校推薦枠の増員」要請が、9校13名分あった。これらの要望は、速やかに学部長と入試委員長、学長承認と、教職協働でスピード感をもって対応した。高校の現場に対しても丁寧に対応した結果が、出願に結びついている。

### (2)入試状況(2024.3.1時点)

- ①総合型選抜(年内)の手続者は108名で、昨年度122名に比べて約11.5%減となった(経済学部は9.1%、国際学部は-60%、教育学部は-20%)。他大学では、11/1の合格発表日(文科ルール)よりも前に受験生へ可否を知らせ、早期に取り込んでいたケースが散見され、この影響を受けた可能性が高い。
- ②推薦型選抜の手続者は、昨年度257名に対し203名と、21%減となった。教育学部は昨年度比プラス42.9%と好調だったが、経済学部は-26.9%、国際学部は-34.5%となった。日東駒専、大東亜帝国クラスの大学が、指定校推薦枠を増やしたり、総合型でも合格者を例年以上に多く出したりと、都心の大学に吸い取られた状況も影響したと思われる。
- ③一般選抜1期の志願者数は、全学で延べ123名で、昨年度122名とほぼ同じ。特に経済学部では、ボーダーラインを見直して多くの合格者を確保した結果、歩留率は上昇し、昨年度2名の手続に対し、19名が手続を行い、入学者確保に奏功した。また、大学入学共通テスト利用1期では、全学の志願者数は28%減少したものの、特に教育学部の手続者が増え、昨年度ゼロ名に対し、6名となった。全学では、昨年度2名の手続者に対して9名が手続を行っている。しかし全体的に後半入試の志願者は昨年度を大幅に下回っている。本学の受験生層は、既に年内入試で志望大学を決めていると思われる。

## 5 次年度に向けた課題(ACTION)

年内の総合型選抜、学校推薦型選抜で、入学定員充足100%を目標とする。その実現のため、以下の取組を実施する。

### ①オープンキャンパス

- ・新棟の積極的活用、新学部の模擬授業などを含めたPR
- ・SNS(特にインスタグラム)を活用したOC告知、LINEを通じたOCページへの誘導と参加申込(マイナビ「wowcan! LINE連携ツール」の導入)

### ②進学ガイダンス、模擬授業、高校訪問

- ・大学、短大の事務一本化に伴う人員増を生かして、より一層の「進学ガイダンス」出席を目指し、高校生徒の接触機会を増やしてOCをPRする。
- ・高校教員向け、日本語学校教員向け説明会の継続実施。※説明方法や「在学生体験談」などの、プログラムを見直して、参加教員の関心度を上げる。
- ・「業者向け」説明会の復活。進学ガイダンスの参加機会を増やす
- ・人員増に伴う高校訪問の強化

### ③入試改革

- ・共通テスト利用「外部試験利用方式」、総合型選抜「探究型(仮称)」、一般選抜A,B日程(2日連続実施)、2期の3回実施

以上

## 基準6 教員・教員組織

関連委員会	副学長、学部長、教務部、大学事務局長
関連部署 (事務部門)	修学支援室
関連データ(規程)	建学の精神、敬愛大学教育憲章、敬愛大学学則

### 令和4年度 【次年度に向けた課題】

- (1) 大学設置基準上の必要教員数を考慮し、また年齢構成も踏まえて教員の人事計画(採用)を、各学部ではなく、大学全体で検討を進めていく。
- (2) 評価内容について引き続き検討をしていく。

### 1 令和5年度 活動方針・目標(ACTION PLAN)

- (1) 大学設置基準、教職課程設置基準上の必要教員数、また年齢構成等も踏まえて教員の人事計画(採用)を進めていく。
- (2) 教員評価の内容について引き続き見直しを行う。

### 2 具体的計画(PLAN)

- (1) 教員の人事計画(採用)について、大学全体で情報共有する。
- (2) これまでの教員評価の内容・項目、実施時期について再検討を行う。

### 3 取組状況(DO)

- (1) 大学執行部会議等で学長、学部長から人事計画について方向性や採用審査の進捗状況など随時報告がある。  
2024年度採用に向けて、経済学部5名、国際学部1名、教育学部2名の審査、面接を進めている。  
新学部設置(2025年度)に向けて12名の専任教員が必要となるため、採用条件の検討、面接等を進めている。
- (2) 2022年度の教員評価については規程に沿って実施した。

### 4 点検・評価(CHECK)

- (1) 専任教員採用については取組状況(DO)の通り、進めることができた。
- (2) 教員評価については問題なく実施することができた。

### 5 次年度に向けた課題(ACTION)

- (1) 教員の任用に関する基準及び手続きは「教員資格審査規則」と「教員資格審査細則」等に沿って実施されているが、教員の募集と採用に関する規程等がないため、これを整備し、方針や手続を明確にして教員の募集と採用を進められるようにする。
- (2) 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行う体制や規則等を整え、教員組織の改善と向上に向けた取り組みを進めていく。
- (3) 専任教員採用については、大学設置基準上の必要教員数を考慮し、新学部設置も含め大学全体で検討をしていく。
- (4) 教員評価の内容については、適切性を引き続き検討していく。

以上



## 基準7 学生支援

関連委員会	学生部、教務部、キャリアセンター運営委員会
関連部署 (事務部門)	学生支援室、修学支援室、キャリアセンター事務室
関連データ(規程)	建学の精神、敬愛大学教育憲章、敬愛大学学則

### 令和4年度 【次年度に向けた課題】

#### < 学生支援関係 >

- (1) 障害者差別解消法の義務化にむけた配慮学生支援体制の強化。
- (2) 修学支援新制度の周知を拡大と本学独自の奨学金の認知度を強化。
- (3) キャンパス統合に向けた学友会組織体制の整備と体育会強化クラブへの支援を強化。
- (4) 体育施設の学生利用システムを構築。
- (5) キャンパス内全面禁煙に向けた取組みの強化。

#### < 就職支援関係 >

- (1) 就職内定先の質の向上(上場企業、金融機関、成田空港関連、公務員等)
- (2) インターンシップの学生参加率の向上

#### < 修学支援関係 >

- (1) 特別修学指導対象学生は退学予備軍となっている傾向があるため、特別修学指導対象にならないようにする(特別修学指導対象学生の減を目指す)。

### 1 令和5年度 活動方針・目標(ACTION PLAN)

#### < 学生支援関係 >

- (1) 学生支援に関する方針に基づき厚生補導に真摯に取り組む。
- (2) 奨学金等各種支援制度の周知徹底を図り、修学及び課外活動への意欲を高める。
- (3) 学生相談体制の安定・定着化を図る。
- (4) 学友会組織の活性化を図る。
- (5) クリーンキャンパスの維持を目指す。

#### < 就職支援関係 >

- (1) 引き続き高い就職内定率と就職希望率を継続させる。(目標:就職内定率100%、就職希望率90%)
- (2) 就職内定先の質の向上。(上場企業内定率15%、金融業界内定率6%、成田空港関連企業内定率3%)
- (3) 新三省合意に基づくインターンシップに取り組む。
- (4) 就職環境の変化に対応した就職支援の在り方を検討する。

#### < 修学支援関係 >

- (1) 特別修学指導対象学生は退学予備軍となっている傾向があるため、特別修学指導対象にならないようにする(特別修学指導対象学生の減を目指す)。

### 2 具体的計画(PLAN)

#### < 学生支援関係 >

- (1) 修学支援新制度について、オープンキャンパス参加者への周知を拡大し、本制度の理解度を高めさせる。
- (2) 「障害学生支援の基本方針」を定める。
- (3) 精神科校医相談を含めた相談体制を再編する。
- (4) 学友会組織運営にあたり、会則の見直しや予算管理指導、学友会行事の見直しを行う。また、体育会強化クラブへの活動予算の支援を強化する。
- (5) キャンパス内全面禁煙に向けた周知の徹底と禁煙活動を含めたマナーキャンペーンおよびマナー教育を実施するとともに、学外敷地での喫煙者に対する対応策を定める。

#### < 就職支援関係 >

- (1) 学内企業選考会(企業説明会＋一次選考)の実施、就活セミナーの実施、就職フェアの実施等により就職実績の向上を図る。
- (2) 個別相談の強化(個別状況の実態把握の強化、対面並びにWeb活用による指導の充実)と求人先の新規開拓による就職内定先の質の向上を図る。
- (3) 改定された「新三省合意に基づくインターンシップ」について、今後とも企業や学生に対する周知を図る。
- (4) 一人ひとりの学生に対するきめ細かく丁寧な就職支援活動の実施。

#### < 修学支援関係 >

- (1) 特別修学指導対象の基準の見直しなどを検討する。

### 3 取組状況(DO)

#### <学生支援関係>

- (1) 修学支援新制度の周知拡大を目指し、参加者が集中する8月のオープンキャンパスにおいて、奨学金関係説明ブースを設置し対応した。
- (2) 「障がい学生支援の基本方針」を定め、執行部会議にて審議し教授会にて報告した。今後は、ホームページ等への公開を進める。
- (3) 短大との業務一元化を含めた学生相談体制の編成を進行中である。
- (4) 短大との業務一元化を含めた学友会組織運営方法を検討している。また、教育後援会予算において、体育会強化クラブへの支援を充実させている。
- (5) キャンパス内全面禁煙に向け、前後期ガイダンスでのマナー教育、前期マナーキャンペーンの実施、毎月22日の学内禁煙デー等を実施している。

#### <就職支援関係>

- (1) 4年生を対象とした「学内企業説明会＋選考会」については、4/12～7/24までに35社のご協力により、104名の学生の参加を得て実施。3年生を対象にした「就活セミナー」については、5/16～9/26までに自己PR作成講座、履歴書作成講座、業界・業種・職種講座等を中心に9回実施済。今後も就職活動本番に向けて、必要不可欠なプログラムを実施する予定。
- (2) 3年生のうち教員志望を除く就職希望者全員を対象に、11/16～1/31までにキャリアセンター全職員による個人面談会を実施し、学生の就職希望の確認、就職意識の把握、就職セミナーや就職フェア等の周知を行うことにより、就職活動に対する意識の向上を図る。また、企業との就職情報交換会等に積極的に参加し、新たな就職先の開拓により内定先の質の向上を目指す。
- (3) 夏のインターンシップについては、30社の企業からの受け入れにより、実習参加学生は70名となった。また、「インターンシップマッチングフェア」については、16社の企業のご協力により24名の参加を得て、オンデマンドにて実施した。また、「新三省合意に基づくインターンシップ」について、企業や学生等に対する周知を図っている。
- (4) 今年度も一人ひとりの学生に対し、きめ細かく丁寧な就職支援活動を実施。

#### <修学支援関係>

- (1) 特別修学指導対象の基準は変更せず、ガイダンス等で個別相談の時間を例年以上に設け、履修登録時の指導を重視し対象学生を減らす取組みとした。

### 4 点検・評価(CHECK)

#### <学生支援関係>

- (1) 学生支援については、真摯に取り組み良好であった。
- (2) オープンキャンパス来場者や在学生への奨学金関係の周知を強化することができた。特に、長戸路記念奨学金の給付により学生の修学への意欲が向上した。
- (3) 「障がい学生支援の基本方針」を定め、ホームページへの公開を行った。また、次年度の学生相談体制の再編成を行った。
- (4) 短大移転に伴い、学友会組織の運営方法を見直し、学友会活動の活性化を図ることができた。また、教育後援会において体育会強化クラブへの支援を充実させることができた。
- (5) キャンパス内全面禁煙に向けた各種キャンペーン(毎月22日の学内禁煙デー、年2回のマナーキャンペーン)を実施した。 <就職支援関係>
- (1) ①4年生対象の「学内企業選考会(企業説明会＋選考会)」については、4/12～10/31まで44社のご協力により実施。4年生131人が参加し、13名の内定獲得に繋がった。  
②3年生対象の「就活セミナー」は、5/16～2/1までに22回実施し、延べ571名の学生が参加した。就職フェアについては2/15、2/16の2日間、48社の優良企業を招聘し、2日間延べ311名の学生が参加した。
- (2) 3年生のうち教員就職を除く就職希望者に対し、進路に関する意思確認および今後の就職支援方針等を確認するとともに就活セミナーや就職フェア等の周知を行うため、令和5年11月16日～令和6年1月31日までキャリアセンター全職員による個人面談を実施した。また、企業との就職情報交換会等に積極的に参加し、新たな就職先の開拓に努めた。
- (3) 「新三省合意にもとづくインターンシップ」が今年度より開始され、30社の企業の協力により76名の学生が参加した。また、参加学生がプレゼンテーションを行う「インターンシップ報告会」を11月14日に開催し、受入れ先企業の担当者から、発表学生に対し今後に向けたアドバイスを含めたコメントをいただくとともに、学生の成長を実感していた。
- (4) 今年度も一人ひとりの学生に対するきめ細かく丁寧な個別指導を実施した。

#### <修学支援関係>

- (1) 特別修学指導対象学生を減らす取組みを行ってきたが、昨年度より3%～4%増となってしまった。

### 5 次年度に向けた課題(ACTION)

<学生支援関係>

- (1) 新たな学生相談体制を安定化させる。
- (2) 新たな学友会組織の安定化を図り、学友会活動を活性化させる。
- (3) キャンパス内全面禁煙化に伴う諸問題を対処する。

<就職支援関係>

- (1) 就職内定先の質の向上(上場企業、金融機関、成田空港関連、公務員等)。
- (2) 新三省合意にもとづいたインターンシップの参加率向上。
- (3) 各種就職支援講座の参加率向上。

<修学支援関係>

- (1) 特別修学指導対象学生を減らしていく対策を検討していく。

以上

## 基準8 教育研究等環境

関連委員会	副学長、教務部、メディアセンター運営委員会、総合地域研究所運営委員会、大学事務局長
関連部署 (事務部門)	修学支援室、メディアセンター事務室、大学運営室
関連データ(規程)	建学の精神、敬愛大学教育憲章、敬愛大学学則

### 令和4年度 【次年度に向けた課題】

- (1) 新学事システムの安定的運用と活用
- (2) 2024年度(新棟完成、短大移転、BYOD実施、図書館移転等)に向けた環境整備
- (3) メディアセンター主催活動(YomuYomu運動、MOS講座等)の活性化及び短大との合同実施に向けた調整
- (4) 研究活動の促進のため、大学が地域社会の「地(知)の拠点」になる意義について所員と協議する機会を総会の場以外でもつくることを課題である。

### 1 令和5年度 活動方針・目標(ACTION PLAN)

- (1) 4月から稼働している新学事システムを安定的に運用し、円滑に活用する。
- (2) 新棟移転、BYOD実施に向けたICT環境・基盤の整備を進める。
- (3) 図書館の新棟移転を円滑に行う。
- (4) 2024年度からのメディアセンター主催活動の大学・短大合同実施に向け、大学・短大ですり合わせを行う。
- (5) コロナ禍での実績を踏まえて、コロナ後の研究所活動のさらなる活性化を図り、地域社会の「地(知)の拠点」としての機能を強化する。

### 2 具体的計画(PLAN)

- (1) 運用開始後の不具合等についてはメーカーの修正プログラムにより随時メンテナンスを実施する。  
また、販売業者との定期的な会議も実施する。
- (2) ①インターネット回線をSINETに接続し、1Gbps→10Gbpsに増速化する。  
②既存の無線アクセスポイントの管理を、新棟であらたに稼働するコントローラーでの管理に変更する。  
また一部旧型のアクセスポイントの交換も行う。  
③セキュリティ対策として、ネットワークに接続するユーザーや端末の認証とアクセス制御を行うためのネットワーク機器を導入し、システムを構築する。  
④BYOD開始に向け、幹旋販売業者や機種を選定を行い、入学予定者に対して案内する。  
また入学後の説明会の日程、実施方法について検討し、決定する。
- (3) 移設資料の選定、配架シミュレーション等を行い、12月23日以降図書館を閉館、引越し作業を行う。
- (4) YomuYomu運動、学生選書ツアーなどの日程、実施方法等について、大学・短大合同運営委員会で調整を計る。
- (5) 公開研究会開催、共同研究・調査の企画・実施に引き続き注力するとともに、研究所主導の中長期的な研究・調査の取り組みも図り、運営委員会等を中心に企画・実施していく。

### 3 取組状況(DO)

- (1) 不具合等についてはメーカーのサポートセンターを通じ、随時対応している。また導入業者と2ヶ月に1回程度の定例会議を開催し、対応状況の確認を行っている。
- (2) ①6月に国立情報学研究所へのSINET加入申請を行い、手続きを進めている。またインターネットアクセス回線業者についても8月に学内の調達申請により選定した。  
②2号館、3号館の改修工事を勘案した無線APの配置計画を検討し、概ね完成した。  
③導入するネットワーク機器の学内調達申請手続きを終え、稼働に向けシステム構築を進めている。  
④各業者から推奨機種等の提案を受け、PCのスペックの検討を進めた。また「入学のてびき」に掲載するBYODについての原稿を作成した。
- (3) 移設資料の選定を進めている。引っ越し業者が決まり、6月と10月に打ち合わせを実施した。
- (4) 7月と9月に大学・短大の合同運営委員会を開催し、方向性を確認した。
- (5) 研究所活動のさらなる活性化と、地域社会の「地(知)の拠点」としての機能を強化する目標の下、所員による共同研究・調査の企画・実施を引き続き促進するとともに、研究所主導で複数の中長期的な研究・調査をスタートすることを検討中である。

#### 4 点検・評価(CHECK)

(1) 不具合等の修正対応などのほか、スマホ出席機能をあらたに追加した。

(2) ①2月にSINETへの回線切替を完了した。

②無線LANアクセスポイントの管理を、新棟であらたに稼働するコントローラーでの管理に変更し、一部旧型の無線LANアクセスポイント交換工事も3月に完了した。

③ネットワーク機器導入後、新しい無線・有線LAN接続方式の設計・テストを終え、4月の本運用に向け、準備中である。

④BYOD用PCの推奨スペックをホームページに掲載し、また推奨PCのECサイトでの販売を実施した。

(3) 実測作業、配架シミュレーションを終え、現在図書の移設作業を実施中である。

(4) メディアセンター主催活動は基本的に大学・短大合同で実施することを確認した。

(5) 地域社会の発展と課題をテーマとしたシンポジウムを、地域を代表する機関のシンポジストとともに開催することにより、当研究所の「地(知)の拠点」としての機能を強化することができた。並行して、来年度より研究所主導の中長期的な研究・調査をスタートする基盤を整備した。

#### 5 次年度に向けた課題(ACTION)

・大学、短大一元化後のメディアセンター業務の円滑な運用

・新棟図書館の利用活性化

・情報システムの安全管理対策

・引き続き地域社会の発展と課題をテーマとしたシンポジウムや公開研究会を前広に企画・実施するとともに、研究所主導の中長期的な研究・調査をスタートし成果を出したい。

以上

## 基準9 地域連携・社会貢献

関連委員会	総合地域研究所運営委員会、生涯学習委員会
関連部署 (事務部門)	大学運営室、地域連携センター事務室
関連データ(規程)	建学の精神、敬愛大学教育憲章、敬愛大学学則

### 令和4年度 【次年度に向けた課題】

- (1)「ちば産学官連携プラットフォーム」、「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」を有効に活用した地域連携・社会貢献、生涯学習、産学官連携を推進すると共に、千葉市役所や稲毛区役所とより密接な連携を深めて、地元ならではのニーズを把握し、学生・教職員が共に取り組める場を提供することが課題である。
- (2)千葉市を中心に近隣の自治体とのさらなる連携をはかり、長期的な視野に立っての研究・調査や人材育成などの事業企画の実施が課題である。
- (3)公開研究会の継続的实施をはかり、本学から、公民館、高校などを含めた地域社会への情報の発信性を高めることが課題である。

### 1 令和5年度 活動方針・目標(ACTION PLAN)

- (1)地域連携センターを中心に学内外の各組織との円滑な情報共有を図るとともに、学生・教職員が地域社会との接点を増やし、地域課題の中で本学が寄与できる分野に注力する。また中期計画に基づき、生涯学習やリカレント教育の整理・充実をめざす。
- (2)地域社会への情報の発信性を高めるため、地域の諸主体との接触・協働をさらに増やす。

### 2 具体的計画(PLAN)

- (1)①千葉市役所、稲毛区役所等と連携し、地域や町内自治会の課題解決に学生・教職員が関わる環境を整備する。  
②ポスト・コロナ期の生涯学習・リカレント教育のニーズを適切に把握し、講座の整理・充実に取り組む。
- (2)公開研究会開催等による地域社会への情報発信を継続・拡充するために、近隣自治体に加えて、経済諸主体(企業、経済団体、他)や教育機関・組織等との交流・意見交換の場を創っていく。

### 3 取組状況(DO)

- (1)①千葉市とは「千葉開府900年」に向けた意見交換への3つのゼミの参加や主催者教育(模擬選挙)、「パラスポーツフェスタちば2023」などに、稲毛区役所や千葉市社協・千葉県社協とは意見交換会や取材を受けるなど多数の取組が展開されている。  
②千葉市生涯学習センターやちば産学官連携プラットフォームを通じた意見交換やニーズ把握に努めている。
- (2)シンポジウムや公開研究会の開催等を通じて、経済諸主体(企業、経済団体、他)をはじめとする地域社会との接触・協働の拡大を図る方針である。その一環として、12月に開催予定のシンポジウムでは、県・銀行系総研・地域メディアなどをシンポジストに招く計画を進めている。

### 4 点検・評価(CHECK)

- (1)千葉市役所や稲毛区役所、各大学や関係団体等との連携が強化され、学生や教職員が地域の様々な課題に意識を持ち、地域社会との接点を増やすことに貢献することができた。生涯学習でも様々な工夫を講じたが、収支均衡が実現できないことから、生涯学習センターの閉館を検討したものの、長戸路学園との協議の結果、縮小継続することとなった。
- (2)県・銀行系総研・地域メディアからシンポジストを招聘したシンポジウムの開催(2023年12月)を通じて、地域社会との接触・協働を拡大した。

### 5 次年度に向けた課題(ACTION)

- (1)「ちば産学官連携プラットフォーム」や「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」、また新たに設けられる「千葉県福祉系高校人材育成コンソーシアム」を有効に活用した地域連携・社会貢献、生涯学習、産学官連携を推進する。また千葉市役所や稲毛区役所との連携を密にし、正課・正課外を問わず地域から学ぶ環境の整備を推進する。
- (2)2023年度に整備した基盤に加えて、他の経済諸主体(企業、経済団体、他)への接触・協働を図り、地域社会の課題に取り組むことを通じて当研究所の社会貢献の責務を果たしていきたい。

以上

## 基準10 大学運営・財務 (1)大学運営

関連委員会	常務理事会、理事会、大学運営会議
関連部署 (事務部門)	法人運営室、大学運営室
関連データ(規程)	建学の精神、敬愛大学教育憲章、敬愛大学学則

### 令和4年度 【次年度に向けた課題】

(1)内部質保証外部評価会議(現教育検証会議)及び学生モニター会議を実施し、意見・課題等を適切な改善活動に繋げる。(2)FD・SD研修会の内容を精査し、適切に計画し開催する。  
(3)2024年度の短大の移転に向けて、大学と短大の組織・業務等の合理化に向けた組織の再編、業務内容、職員の配置について検討し、適正な人員配置を行う。

### 1 令和5年度 活動方針・目標(ACTION PLAN)

(1)内部質保証外部評価会議(現教育検証会議)を9月に学生モニター会議を11月に開催する。  
(2)FD・SD委員会にて、適切な研修内容を確定させ、確実に運用する。  
(3)2024年4月千葉敬愛短期大学の稲毛キャンパスへの移転に伴い、「稲毛キャンパスの統一性と効率化を図るため、組織・人事・業務など、大学と短期大学の運営に関わるすべてについて、原則として一元化する」ことを基本方針とする(令和4年6月28日発出文章より抜粋)。

### 2 具体的計画(PLAN)

(1)内部質保証外部評価会議(現教育検証会議)、学生モニター会議における意見・課題等を自己点検評価委員会に報告し、各関連組織・委員会等での改善活動に繋げる。  
(2)学園教職員合同研修会を8月21日(月)に実施する。  
(3)関連組織・委員会毎に一元化(規程の改正含む)の成案の取り纏め協議を行い、令和5年9月末日迄に成松大学副学長、吉村短大副学長へ報告する。その後、10月から3月に関連規程の改訂等を行う。

### 3 取組状況(DO)

(1)内部質保証外部評価会議(現教育検証会議)は、2024年2月28日(水)に延期することになった。学生モニター会議は、11月28日(火)に開催する。  
(2)学園教職員合同研修会を8月21日(月)に、大学・短大部会では、①テーマ:「SDGsについて」、講師:市川先生、②テーマ:KCNの活用について、講師:教務部委員会他を、事務職員部会では、①テーマ:建学の精神(敬天愛人)、講師:中山学長、②テーマ:情報セキュリティとセキュリティポリシーの導入、講師:メディアセンター齋藤主幹にて開催した。  
(3)2024年4月千葉敬愛短期大学の稲毛キャンパスへの移転に伴い、関連組織・関連委員会にて一元化について協議を行った。その取り纏め結果を10月20日(金)成松副学長、吉村短大副学長に報告済み。10月31日(火)大学運営会議に提出する事となった。

### 4 点検・評価(CHECK)

(1)内部質保証外部評価会議(現教育検証会議)は、2024年2月28日(水)に延期実施した。学生モニター会議は、11月28日(火)に開催した。両会議で得られた意見等から改善活動に繋げる。  
(2)学園教職員合同研修会を8月21日(月)に、大学・短大部会では、①テーマ:「SDGsについて」、講師:市川先生、②テーマ:KCNの活用について、講師:教務部委員会他を、事務職員部会では、①テーマ:建学の精神(敬天愛人)、講師:中山学長、②テーマ:情報セキュリティとセキュリティポリシーの導入、講師:メディアセンター齋藤主幹にて開催した。  
(3)2024年4月千葉敬愛短期大学の稲毛キャンパスへの移転に伴い、関連組織・関連委員会にて一元化について協議を行った。その取り纏め結果を10月20日(金)成松副学長、吉村短大副学長に報告し、10月31日(火)大学運営会議に提出した。関連規程の改正手続きも完了した。

### 5 次年度に向けた課題(ACTION)

(1)引き続き、内部質保証外部評価会議(現教育検証会議)及び学生モニター会議を実施し、意見・課題等を適切な改善活動に繋げる。  
(2)FD・SD研修会の内容を精査し、適切に計画し開催する。  
(3)短期大学移転、組織変更、業務見直し、新教育棟(1号館)の稼働を遅滞なく適切に運用する。

以上

## 基準10 大学運営・財務 (2)財務

関連委員会	学園事務局長、大学事務局長
関連部署 (事務部門)	経理・管財室、大学運営室
関連データ(規程)	建学の精神、敬愛大学教育憲章、敬愛大学学則

### 令和4年度 【次年度に向けた課題】

- (1) 自主財源の確保に努め、収支差額の恒常的な黒字化を目指し、経常予算の編成にあたっては引き続き経費全体の見直しを図る。
- (2) 引き続き、経常的経費の抑制を図って財政計画に掲げた数値目標、及び「基本金組入前当年度収支差額」の黒字化実現を目指す。

### 1 令和5年度 活動方針・目標(ACTION PLAN)

- (1) 自主財源の確保に努め、収支差額の恒常的な黒字化を目指し、経常予算の編成にあたっては引き続き経費全体の見直しを図る。
- (2) 引き続き、経常的経費の抑制を図って財政計画に掲げた数値目標、及び「基本金組入前当年度収支差額」の黒字化実現を目指す。

### 2 具体的計画(PLAN)

- (1) 2024年度の予算編成に際しては、2022年度における予算執行率の低かった内容を抽出するとともに検証を行う。
- (2) 物件等の調達にあたっては、見積り合わせを行うことにより、経済合理性を確保し、経費の削減に繋げる。また、2024年度の経常予算要求の限度額については、実績額(2022年度決算)を基礎に短大との施設設備の供用や事務局の一元化を踏まえた金額とするか、対前年度予算比に基づいた金額とするか検討を行う。

### 3 取組状況(DO)

- (1) 計画では、2022年度における予算執行率の低かった内容の検証を行うこととしていたが、大学・短大の事務一元化に伴う固有の予算・共通予算の抽出や組替えを行っているところである。
- (2) 2024年度予算編成方針における財務規律として、経常予算額については原則として2023年度当初予算額を上限とした。一方で、新棟供用開始に伴う新規予算や大学・短大の事務一元化に伴う予算の調整を図っているところである。

### 4 点検・評価(CHECK)

- (1) 2022年度における予算執行率の低かった費目について、検証は行ったものの、フィードバックには至っていないが、大学・短大の事務一元化に伴う固有の予算、共通予算については、抽出、組替えを行った。
- (2) 2024年度の経常予算要求限度額については、予算編成方針における財務規律において、2023年度の当初予算額を上限とした。事務局の一元化や経理・管財室におけるペーパーレス化の開始に伴い、経費の削減が予測される一方で、新棟供用開始に伴う施設設備の維持管理経費が増加する見込みである。

### 5 次年度に向けた課題(ACTION)

- (1) 自主財源の確保に努め、収支差額の恒常的な黒字化を目指し、経常予算の編成にあたっては引き続き経費全体の見直しを図る。
- (2) 引き続き、経常的経費の抑制を図って財政計画に掲げた数値目標、及び次年度にあつては「経常収支差額」の黒字化実現を目指す。

以上